

第2号議案 令和8年度事業計画（案）及び 令和8年度予算（案）について

社会福祉法人鶴見乳幼児福祉センター 令和8年度事業計画（案）

今年度は中期計画（令和7年度～令和9年度）の2年目であり、最終年度の計画達成に向けて、進行管理に十分留意し計画を推進していきます。

1 法人全般

（1）情報収集、情報共有

保育所運営等に関する様々な最新情報を収集し、法人会議・園長会議・職員会議等で情報共有し、実現可能なことについては、必要であれば予算措置をして実施していきます。

（2）環境整備

入所児童・保護者・職員のための環境整備として、園舎・園庭等のハード面、制度・利用方法等のソフト面の両面から、より魅力ある保育園を目指してさまざまな取り組みを推進します。

今年度は、前年度の課題整理を基に収入見込みを踏まえて、令和9年度事業との振分けを含め計画的に進めていきます。

（3）地域特性等に応じた柔軟な園運営

3園それぞれの地域特性、保育所設置経緯、これまでの運営実績等を踏まえて、法人としての一体性を保ちつつ、柔軟な園運営を行っていきます。

今年度は、4月1日から委託実施する入船の森保育園の給食調理業務委託について、随時検証を行うとともに、給食会議等で他の2園と情報共有し、全園でのより良い給食提供につなげていきます。

（4）職員が働きやすい職場づくり

職員が、より明るく楽しく意欲的に仕事に取り組めるよう、働き方改革を含めて、施設整備、給与改定、福利厚生充実などを行っていきます。

今年度も令和7年人事院勧告を反映した委託費の単価改定による収入増が見込まれることから、令和8年4月1日に給与改定を実施します。また、昨年度と同様、令和7年4月1日に遡って公定価格差額分が交付された場合は、各職員の勤務実績に応じて一時金として夏季賞与に上乗せして支給します。

（5）人材育成

昨年度に策定した人材育成指針に沿って人材育成を進めます。1年間の成果を踏まえて次年度の取組みに活かしていきます。

(6) SNS活用等による保育士採用

保育士採用に苦慮している現状を打破するため、外部委託により、若年層に浸透しているSNSの活用や保育士養成校へのPR等による3園の認知度向上策を推進し、保育士採用につなげていきます。

(7) 事務処理改善の推進

昨年度から導入したクラウドサービスを更に充実させ事務処理改善を推進します。
また、勤怠管理システムの改善による給与支給事務の軽減を図ります。

2 各園の事業計画

別添、資料2-2、資料2-3、資料2-4

3 理事会・定時評議員会等の予定

第1回理事会；令和8年5月30日（土）

定時評議員会；令和8年6月27日（土）

第2回理事会（ドリーム法人の集い）；令和8年11月7日（土）

第3回理事会；令和9年3月27日（土）

4 会 議

(1) 法人会議（1回／月）

理事長、園長、法人担当ほかが出席し、法人運営全般等について合議。

(2) 園長会議（2回／月）

園長、法人事務局他が出席し、園運営等について情報共有及び合議

(3) 主任保育士会議（1回／月）

各園の情報交換、現場運営、新人研修等について協議

(4) 給食担当者的会議（1回／月）

各園の献立・喫食状況等について情報交換

(5) 事務職会議（1回／月）

委託先会計士による会計チェック、情報交換

令和8年度事業計画（案）

保育園名：鶴見乳幼児福祉センター保育園（定員109名）									
1.クラス体制	クラス（クラス名）		児童数（定員数）		職員数	担 当 職 員			
	0歳児	もも組	6名（6名）		2名	松本・山崎（朝）五十嵐・森田（夕）			
	1歳児	ちゅうりっぷ組	12名	（20名）	3名	林・宮澤・浅見（派）（朝夕）小林（美）・渡慶次・			
		ちゅうりっぷしる組	8名		2名	西嶋・平川（朝）柴田（朝夕）児玉			
	2歳児	さくら組	20名（20名）		4名	松本・小松原・近藤（真）・志戸田（朝）新島（夕）赤塚			
	3歳児	つくし組	21名（21名）		2名	西川・石井			
	4歳児	たんぽぽ組	19名（21名）		各1名 （副1名）	佐々木（海） } 田邊（4.5歳副担任）（朝夕）尾崎 谷 } 門間			
	5歳児	すみれ組	21名（21名）						
	*主任：中村 *事務：佐々木 *フリー：山口・井本・矢作・柴田 *一時保育：フリー担当								
*管理栄養士：尼野 *調理：斎藤・小林（奈）永野・中野（子育て支援）上竹・近藤（慈）・荻原									
2.職員数	正 規 職 員（22名）								
	園長	主任	主任代行	保育士	管理栄養士	調理	事務員	産休育休	
	1	1		15	1	2	1	1	
	非 正 規 職 員（20名）								
	保育士	保育補助	栄養士	調理	看護師	その他	派遣職員		
	11	5	1	1	0	0	2		
3.行 事	4月	入園を祝う日・0歳/1歳クラス交流会							
	5月	園児健診・5歳児遠足・ふれあい動物村・5歳児保育参加、個別懇談							
	6・7月	3/4歳児保育参加、個別懇談・歯科健診・歯磨き指導・お茶会・プール開き							
	8・9月	5歳児お泊り保育・0歳児保育参加、個別懇談・プールじまい・秋祭り							
	10月	園児健診・2歳児保育参加、個別懇談・運動会							
	11月	歯科健診・1歳保育参加、個別懇談・3歳児遠足・4歳児遠足・歯磨き指導							
	12月 1月	5歳児個別懇談・おもちゃつき会・お楽しみ会・0歳、1歳クラス懇談・3歳生活発表会&クラス懇談会							
	2月	豆まき会・2歳クラス懇談会・4歳/5歳生活発表会&クラス懇談会							
	3月	お別れ会・卒園式・進級を祝う会							
	（毎月実施）避難訓練・身体測定、（年4回）わらべうた遊び、（毎週木）リズム遊び、（毎週火）英語教室（年10回）体操教室								
4.運営について	・令和8年度より定員数を109人とする（△9人）。4歳児クラス2名の欠員だがその他のクラスは利用定員の入所。利用定員を変更したことにより保育単価が上がり委託費は増収見込み。また、人事院勧告により保育士の処遇を改善し、職員給与に反映する。								
	・正規職員2名、定年退職の非正規職員の補充をしていくが、勤務時間などを精査して適正配置となるよう努めていく。								
	・常設園の運営は、地域の子育て世代のニーズも多くの保育園選びへとつながることもあるため、子育て事業の補助金を有効活用し事業の積極的な運営を行っていく。地域の子育て広場との連携や保育の内容について利用者からの要望もあり、ニーズにあったものにしていくことで、保育園を知ってもらう機会となり園運営にプラスとなる。								
	・令和7年度に県有地を購入したことにより借地料の支払いはなくなるが、横浜信用金庫への借入金返済が今年度から始まる（年間返済額は借地料とほぼ同額）。								
5.特別保育事業	・障害児受入れ・地域5園交流・英語教室（毎週火曜日）・幼保小交流・外国籍の家庭への支援 ・延長保育（18：30～19：00）最終園児降園後閉園								
6.公益事業に向けて	・地域子育て支援事業（常設園として運営）園庭開放や絵の本貸し出し（おひさま文庫）、町内会館を借りて地域親子の交流の場「おしゃべりしませんか」の開催、わっくん広場へ出張。年4回の講座や相談など地域親子への支援拠点を担う。近隣子育て拠点へ出張保育。・一時預かり事業の実施								
7.実習生・ボランティア受入れ	・養成校、看護学校実習・鶴大歯科歯磨き実習・中学校職業体験・区社協夏祭り・高校生インターシップ等 ・英語指導・地域の方のボランティア交流								
8.その他	・地域公益活動（地域の夏祭り・地域の子育てイベント・地域の方との交流・公園行事参加等） ・自己評価（保育所・保育士評価）・各種会議（職員会議・クラス会議・係・委員会会議）・法人会議 ・園内外の研修各種・キャリアアップ研修 ・法人制度・新制度・指針改定・処遇改善についての対応								

令和8年度 研修計画 鶴見乳幼児福祉センター保育園

＊研修の目的：専門職として、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性向上に努め、専門職としての責務を果たしていく。

＊園外の研修：横浜市主催・鶴見区主催・白峰保育センター主催・県・市・区社協主催・全保協主催・キャリアアップ研修

＊法人研修： ①3園全体研修（年1回） ②新採用者研修（年3回）
③外部講師による管理職・上級職研修

＊園内研修： ①保育所評価・保育士評価の振り返り ②研修報告と実践
③保育環境を考える(他園の見学)
⑤わらべうた遊び・子どもの育ちを学ぶ（外部講師）
⑥リズム遊び（外部講師、保育の中で学ぶ）

＊自己研鑽： ①よこはまりズム研修会・自然研修・こどもはえがく②ととけっこうの会（わらべうたあそび）

人 材 育 成

<人材育成のしくみ>

保育の質の向上をめざし、職員一人ひとりが自己のスキルアップの目的を達成できるよう、上級職員は後輩職員の育成に努め、その他の職員は自己研鑽に努め、それぞれが組織の中の役割を理解し業務する。また法人3園の共通理解も必要であるため、園長・主任・副主任の連携を密にする。昇格についても、組織の中で意識して仕事ができるよう周知し、職員が目標を持って業務をし、上級職を担える人材を育成していく。

<わらべうたあそび・リズム・自然研修など>

外部講師を招き、こどもたちと一緒に行うことを通して、わらべうた、リズム遊びを学ぶ。こどもの育ちや、振り返りを行うが、保育の実践の中で生かしていく。また、朝、夕の職員にも自己研鑽や園内研修のために講師の実践を撮ったビデオを会議の中で見る時間を設け、保育を語れる組織としてスキルアップを図る。

リズムの振り返りは講師とも行うが、職員が主体となって行うためにもリズムの動きについて子どもの発達やそれに伴っての身体の動きの基礎を学びなおし、園内研修を行い理解を深めて実践につなげていく。また、横浜リズムの会に参加する職員は保育会議の中で研修報告を行い、職員間の共通理解を図っていく。

<鶴見乳幼児福祉センター保育園の人材育成>

幼児クラスは、幼児リーダーが中心となってお互いのクラスを意識しながら保育を行うようになり、連携が密になってきた。乳児クラスは連携の意識はしているが、経験の浅い職員は臨機応変が上手くできず、周囲への視野が狭くなりがちである。先輩の保育士からの助言や自分自身での保育の振り返りは行うが、保育の向上につなげるには未熟さがある。人材育成の中心となるのは4等級以上の職員になるが、4等級以上の職員についても人材育成への共通意識を持つ必要があり、リーダー会議を通じて後輩職員の育成につなげていく。

園庭整備について今年度の保育園の取組みに上げたので、職員間での思いを共有する中で、保育園の保育の振り返りを行い、個々の思いの共有から全体での保育への共有へつなげ、保育園で目指す方向性を職員が自分のこととして考え行動できるようにしていく。

保育園名：駒岡保育園（定員65名）

保育園名：駒岡保育園（定員65名）									
1.クラス体制	クラス（クラス名）		児童数（定員数）		職員数		担 当 職 員		
	0歳児	ひよこ組	1名（3名）		1名		片桐		
	1歳児	すずめ組	8名（8名）		2名		和田・佐藤		
	2歳児	ひばり組	12名（12名）		3名		森・原・今関		
	3歳児	めじろ組	14名（14名）		2名		松木・真壁（加配担当）		
	4歳児	かもめ組	14名（14名）		2名		於保・今井（加配担当）		
	5歳児	つばめ組	14名（14名）		2名		横溝・清水（加配担当）		
	【備考】 主任：菊谷 フリー：糸賀・銭谷・蓮池・蒲地・岡田 朝夕：内田・久保・神山・山口・門口								
土曜対応：鈴木 一時保育：西川 派遣夕方：小林									
2.職員数	正 規 職 員 （10名）								
	園長	主任	保育士	栄養士	調理員	事務員			
	1	1	13	1	1	1			
	非 正 規（13名）			派遣（1名）					
	保育士	保育補助	調理補助	保育士					
	7	3	3	1					
	【備考】								
3.行 事	4月	各クラス懇談会・わらべ歌遊び（幼児）							
	5月	園児健診①・どろんこ開放（育児支援）・幼児お弁当の日・わらべ歌遊び（乳児） 駒岡フェスティバル							
	6月	歯科健診①・話し会①・乳児個人面談週間・プール開き・育児講座（育児支援）							
	7・8月	七夕・育児講座（育児支援）（年長児20:00まで保育）・尿検査							
	9月	3歳保育参加・プールじまい・つばめスペシャルデー・交流保育（育児支援）・不審者訓練							
	10月	わらべ歌遊び（異年齢）4歳保育参加・交流保育（育児支援）							
	11月	交流保育（育児支援）・幼児遠足・2歳保育参加							
	12月	生活発表会・おたのしみデー・不審者訓練②・育児講座（育児支援）							
	1月	5歳個人面談・お話し会②・4歳・3歳・2歳クラス懇談会・わらべ歌あそび（乳児・幼児）							
	2月	豆まき・0歳・5歳クラス懇談会・5歳お別れ遠足・入園説明会							
	3月	ひなまつりお茶会・お別れ会・卒園式・進級を祝う会							
【毎月実施】避難訓練・身体測定・リズムあそび・誕生会はその都度行う									
4.運営状況	・新採用：保育士正規2名 派遣保育士14時半～18時半（毎日）								
	・育児休業復帰 栄養士4月16日～ 保育士5月1日～2名とも6時間の時短勤務 派遣保育士5月いっぱいまで契約終了								
	・園庭整備第2弾を行う。職員とよりよい環境を目指し、検討実行していく。								
	・保育テーブル老朽のため買い替え。子ども用食器も買い替え予定。 ・保育士環境改善事業補助金を申請し、各クラスに職員の荷物が入るような棚を取り付ける予定。								
5.特別保育事業	＊幼保小交流 ＊地域保育園交流 ＊障がい児保育 ＊延長保育 ＊子育て支援 ＊外国人支援 ＊一時保育事業＊延長保育事業								
6.公益事業に向けて	＊各家庭の被服の不用品のリサイクル ＊地域育児支援（交流保育・育児相談） ＊地域のボランティアの受入れ ＊中学校の職業・福祉体験受入れ								
7.実習生・ボランティア受入れ	養成校実習生、北部地域高校インターンシップ受入れ 区社協ボランティア、地域の方のボランティア受入れ								
8.その他	園内外研修各種/キャリアアップ研修/保育園・保育士の自己評価の取り組み 各種園内会議（職員会議・カリキュラム会議・クラス会議・各種委員会・係会議） 各種法人会議（園長、法人会議・主任会議・給食会議・ICT会議・ドリーム担当会議）								

令和8年度 研修計画 駒岡保育園

- * 研修の目的：専門職として、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たしていく。
- * 園外の研修：横浜市こども青少年局、鶴見区こども家庭支援課、白峰保育センター、県・市・区社協主催、全保協、横浜市保育士会、こども家庭庁等主催
- * 法人研修：①主任研修 ②新採用者研修（年3回）
③三園職員交換研修
- * 園内研修：①保育所評価・保育士評価の振り返り ②研修報告と実践
③リズム研修（外部・法人内）④研修報告（会議にて受講した研修報告をする）
⑤わらべうた遊び（外部講師・専門リーダーによる）⑥救急法受講（駒岡消防主張所）
- * 自己研鑽：①よこはまりズム研修会・自然研修 ②「こどもは描く」学習会
③他園訪問・見学

人材育成

<人材育成のしくみ>

- ・育成シートを利用し、目標設定・育成リーダーによる中間期まとめ期の面談・園長の面談と評価を1年サイクルで行いPDCAサイクルで自己の向上を目指す。また、新人には育成リーダーを付け丁寧に育成を行う。
- ・自己のキャリアを構築するため、キャリアアップ研修に参加することで知識を深め、他職員のリーダーとなり発揮していく。
- ・自分の得意とすることを発揮し、それを活躍できる場を設け活かすことで職場内の活性化を図る。

<わらべうたあそび・リズム・こどもは描く>

- ・法人各園の主任が、外部講師の研修を事前に受けて年間カリキュラムをたてる。そのカリキュラムを外部講師が各園で行うわらべうた遊びと日々の保育で行うわらべうた遊びに活かし、各園・各職員の保育の質の向上につながるようなPDCAサイクルをしていく。
- ・よこはまりズムの会に参加することで発達理論を踏まえたリズム遊びの基礎を学び、職員全員で保育の質の向上を目指す。また、子どもは描くの会に参加し、子どもの発達を捉え、子どもへの対応を整えていく。

<新人研修>

- ・法人で社会人としてのマナーや同期の皆でコミュニケーションをとり、KJ法により自分なりの目標を持って取り組む。定期的に振り返りを行う（年3回）。

<駒岡保育園の人材育成>

- ・今年度は他園での経験豊かな新規採用職員が2名入ってくる。それぞれの保育観の違いが予想されるが、「新しい風がはいた」とポジティブに職員一同捉え、必要に応じ保育の見直しを行う。さらに、当たり前ととらえていたことを「なぜ子どもに必要なのか」と改めて職員全員で考えたことをディスカッションする中で互いに育ちあえることを目標とする。また、朝夕を担う職員が園外研修の参加が難しいことや、日中の職員との保育ディスカッションする時間の確保が難しい中で、業者のオンラインによる研修を取り入れる

保育園名：入船の森保育園（定員40名）

保育園名：入船の森保育園（定員40名）									
1.クラス体制	クラス（クラス名）		児童数（定員数）		職員数		担 当 職 員		
	1歳児 ちゅうりっぷ組		8名（8名）		6名		高倉（1歳児担任）・勝俣・實川		
	2歳児 さくら組		8名（8名）				藤（2歳児担任）・中村・柴田		
	3歳児 つくし組		8名（8名）				竹元（3歳児担任）・高橋		
	4歳児 たんぽぽ組		8名（8名）		6名		伊藤（4歳児担任）・大川		
	5歳児 すみれ組		5名（8名）				植田（5歳児担任）・林・福井		
	【備考】主任：遠藤 早番対応：八木下 遅番対応：新垣 フリー：斎藤 土曜対応：山中								
2.職員数	正 規 職 員 （10名）								
	園長	主任	主任補佐	保育士	栄養士	調理員	事務員	産休予定	
	1	1	1	6	0	0	1	1（8月～）	
	非 正 規 （9名）			派遣（1名）	給食業務委託（3名）				
	保育士	保育補助	社会福祉士	保育士	栄養士	調理師			
	5	3	1	1	1	2			
	【備考】								
3.行 事	4月	各クラス懇談会・リズム遊び（小学校交流）・津波訓練（入船小合同）							
	5月	園児健診①・5歳児園外保育・5歳児蓬団子づくり							
	6月	運動会・歯科健診①・入船の森祭り・幼児保育参加・プール開き							
	7月	七夕（育児支援も含む）・わくドキ会（年長児20:00まで保育）・尿検査							
	9月	3歳児保育参加・プールじまい・リズム交流（育児支援）							
	10/11月	運動会・2, 3, 4歳児園外保育・乳児保育参加・炊き出し訓練・園児健診②・歯科健診②							
	12/1月	お楽しみ会・伝承遊び・もちつき会・個人面談							
	2月	豆まき・各クラス懇談会・各クラス懇談会・入園説明会							
	3月	お別れ会・卒園式・お別れ遠足							
	【毎月実施】誕生会・避難訓練・身体測定・わらべうた遊び・リズムあそび・英語で遊ぼう								
4.運営状況	・新採用：保育士正規1名非正規2名、個別相談対応として非正規の社会福祉士1名、通訳ボランティア1名								
	・令和8年4月から給食調理業務の外部委託実施								
	・空調工事（横浜市に青局整備課等が施行）が令和8年10, 11月に施工される。その間の保育は入船小の空き教室を利用(未定)								
	・1, 2歳児クラスは基本的生活習慣に重点を置く。3, 4, 5歳児クラスは多様化・障がい児との統合保育の中で異年齢、年齢別、発達別保育を状況に合わせて行っていく。そのための環境整備をする。								
5.特別保育事業	* 幼保小交流 * 地域保育園交流 * 障がい児保育 * 延長保育 * 子育て支援 * 外国人支援								
	* 町内連合のお祭り支援。地域の見守り隊の方の園行事への参加								
6.公益事業 に向けて	* 各家庭の被服の不用品のリサイクル * 未就学児家庭への育児支援（園児交流・育児相談）								
	* 地域のボランティアの受入れ * ケアプラザにて、高齢者との交流（年2回）								
7.実習生・ボランティア受入れ	養成校実習生、鶴見大学歯磨き指導実習生受入れ・鶴見総合高校職業体験受入れ・区社協ボランティア、地域の方のボランティア受入れ								
8.その他	入船小との接続プログラム作成・実行								
	/各種園内会議（職員会議・カリキュラム会議・クラス会議・各種委員会・係会議） /各種法人会議（園長、法人会議・主任会議・給食会議・ICT会議・ドリーム担当会議）								

令和8年度 研修計画 入船の森保育園

＊研修の目的：専門職として、研修や自己研鑽を通して、常に自らの人間性と専門性の向上に努め、専門職としての責務を果たしていく。

＊園外の研修：横浜市こども青少年局、鶴見区こども家庭支援課、白峰保育センター、県・市・区社協主催、全保協、横浜市保育士会、こども家庭庁等主催

＊法人研修：①主任研修 ②新採用者研修（年3回）
③三園研修

＊園内研修：①保育所評価・保育士評価の振り返り ②研修報告と実践
③リズム研修（外部・法人内）④研修報告（会議にて受講した研修報告をする）
⑤わらべうた遊び（外部講師・専門リーダーによる）

＊自己研鑽：①よこはまりズム研修会・自然研修 ②「こどもは描く」学習会
③他園訪問・見学

人 材 育 成

<人材育成のしくみ>

- ・法人として取り組んでいるトレーナー制度を活用し、5等級・4等級が1～3等級のトレーナーとして日常の保育のアドバイスや相談にのる。（年2回面接）園長はトレーナーからの相談やアドバイスをおこなう。
 - ・横浜市地域療育センター勤務実績のある社会福祉士の非正規職員が園児親子及び地域支援をする姿をモデルとしたり、相談にのってもらうことで、個別配慮児の支援の仕方や環境づくりを学ぶ。
- <わらべうたあそび・リズム・こどもは描く・障がい児、外国人対応研修>
- ・法人各園の主任が、外部講師の研修を事前に受けて年間カリキュラムをたてる。そのカリキュラムを外部講師が各園で行うわらべうた遊びと日々の保育で行うわらべうた遊びに活かし、各園・各職員の保育の質の向上につながるようなPDCAサイクルをしていく。
 - ・通訳ボランティアを必要に応じて依頼する。実際に通訳ボランティアが外国にルーツのある親子とのコミュニケーションを取る様子から、日常に必要な言葉ややり取りの仕方を学んだり、通訳ボランティアに困っていることを質問したりして、外国にルーツのある親子への理解や信頼関係の取り方を学んでいく。
 - ・リズム遊びの基礎を学び、よこはまりズム研修会の研修では、指導者として前に出て、モデルの役割を担う職員を育成していく。

<新人研修>

- ・法人で社会人としてのマナーや同期の皆でコミュニケーションをとり、KJ法により自分なりの目標を持って取り組む。定期的に振り返りを行う（年3回）。

<入船の森保育園の人材育成>

- ・配慮児が多いクラス運営のスキルを上げるために、横浜市地域療育センター勤務していたワーカーが行う園児親子及び地域支援をする姿をモデルとしたり、保育士が相談にのってもらうことで、個別配慮児の支援の仕方や環境づくりを学ぶ。また園内研修の講師として、実施研修も行っていく。
- ・外部研修にも自発的に参加することでスキルが伸びる楽しさを職員が感じられる環境づくりをする。また、法人園だけでなく、他園の訪問や、子どもに関わる福祉施設に訪問する機会を設けることで、より幅広く福祉職・対人援助職のスキルを高めていく。